



死ぬまでに行きたい! 世界の絶景

著者名	詩歩	発行年	2013年
出版社名	三オブックス	ページ数	155ページ
値段	1,365円	ISBN	978-4861996115
コメント	へえ、世界にはこんなところがあるんだ、とビューティフルな写真にわくわくページをめくれます。でも単なる風景写真集ではありません。この絶景ポイントに行くにはどうしたら? と旅の経路や予算や、実際行った人の感想やらが添えられている懇切丁寧なつくりです。ただ憧れるだけでなく、えいっ! て行ってみたいくなる。わくわく度アップなつくりが◎。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勧め度

コメント
読んだ場所 読んだページ数(時間) 立ち読みポイント

投稿時間

ウインディ ☆☆☆☆	この書籍では、Facebookに投稿され、たくさんのいいね! がついた世界中の絶景を写した写真が掲載されており、そのつぎのページに実際そこに訪れるならばどのようなルートがよいのか、予算はいくらかかるのかが掲載されている。コロナウイルスの影響により、旅行することができなくなってしまい、今は写真を見て遠い異国の地に思いを馳せることしかできなくなってしまった。私はイタリアの世界遺産の数々を訪れてみたいという夢を抱いていたが、本書を読むことで、大自然に身を置いてみたいという気持ちも湧き上がった。			
	全部	155P (60分)	全部	2020/11/30 23:36:08

↑天才 ↓変な人 ☆☆☆☆	開くと息をのむ絶景が彩り豊かに掲載されていて惹きつけられて借りることにした。旅行代理店が出しているようなものに比べて一般人が書いているため押しつけがましくなく、旅の注意点や予算、プランが書かれておりこの本だけあればある程度行くための予想がつけられる点が良かった。日本の絶景も紹介されているものの、有名どころや日本から近い国はむしろ少なくはなくヨーロッパ、アフリカ、中南米など行くのに時間も手間も費用も決心もかかるような場所が多かった。その異次元の輝きを放つ絶景が一層「旅をしたい」という気持ちを掻き立てた。コロナにより海外旅行がいけないので、プチ旅行感を得ることができた。前述したとおり現実的に考えると行くのが難しい場所が多いので、モデル旅行を上げた旅行本ではなく風変りな旅の紹介本としてとらえたほうが良い。私が最も興味をそそられたのはフィンランドのサンタクロース村である。365日サンタクロースに会うことができ北部ではオーロラも観測できるという。この本の欠点を上げるとすれば多くの
------------------	---

	観光地がのっているのにもかかわらず、カラー写真が各観光地につき一枚でありもっとたくさん見たいこと、お土産の紹介がないことである。深くその旅や観光地を知りたい人にとっては物足りないかもしれない。			
	全部	155P (60分)	ざっと開いた	2020/11/30 22:35:06

団子 ☆☆☆☆	<p>自分が生きている間に見ておきたい！行ってみたい！と思うような場所は皆さんにはありますか？</p> <p>今回、私がこの本を手にとったきっかけは、タイトルにもある「死ぬまでに行きたい！」というワードに惹かれたからだ。自分の中で、死ぬまでに行きたい場所なんて実際にあるのだろうか？行きたいけれども実際には行けなくても構わないかな、などといったことが大半であった私にとっては、この本はそのような考えを変えるための大きなきっかけになった。</p> <p>まず内容は、世界各地の「絶景」が、素晴らしいカメラマンによる美しい写真とともに紹介されているのももちろんなのですが、それだけではなく細かな案内とデータが書かれているのが、私はこの本の魅力に感じます。その案内などの分を読んでいだけで、実際自分がその地に行って観光している情景が頭に浮かぶ。しかし実際には頭で想像しているだけで行けてはいない。こういったもどかしさの中から、自身の中に「想像ではなく、実際に行ってみよう！」となることは間違いないでしょう。</p> <p>皆さんもこの本を手に取り、自分が死ぬまでには必ず行ってみたいと思えるような、いまだ知らない素敵な絶景を見つけてみましょう。</p>			
	155P	155P (60分)	62P	2020/11/30 21:10:36

asao ☆☆☆☆	<p>幸せになれます。なんで人は見たことのないものに憧れを抱くのでしょうか。本の細かいことを評価する前に、とりあえずどんな人もこの本の写真だけ全部見てほしい、そんな気分です。</p> <p>この本では誌歩さんというなんともオシャレな名前の方が世界の絶景の場所や、日本からの行き方、その場所での注意点などを伝えてくれている本です。この本正直返したくないです笑。</p> <p>将来お金持ちになって、時間が出来たら全部行ってみたいですね。この本、もちろん写真も素晴らしいのですが、途中で挟まれているイラストやコメント、レイアウトデザインなど、とてもセンスがあると感じました。写真で一気に入り込んで、背景知識などを次のページで紹介することで、行きたい欲を爆増させるという高等テクニックを使っていますね。またこの本を評論するにあたって、もう一つ褒めるべきものがあります。フォトグラフィアの腕ですね。</p> <p>もちろん素晴らしい景色をこんなにも風景に合わせて持ち味を前回に出してくれる写真家の方々には大いに感謝しなければなりません。関わった皆様ありがとうございます。</p> <p>さて、自分のおすすめのページとしては、完全な私の好みとなるのですが、13pのコトル湾ですね。鮮やかな赤と青と緑のコントラストです。地中海、一度でいいので行ってみたいです。</p>			
	全部	155P (40分)	13	2020/11/30 19:35:59

masse ☆☆☆☆	<p>この本はざっと見ていられる。コロナ渦で旅行も満足にできない今見るのは少し酷だがイメージして旅行気分を少しでも味わいたい人は是非読んで欲しい。世界各国の64この絶景をお勧めプラン付きで見ることができる。旅行プランを立てるのも楽しいがやはり経験者の言っていることは聞くべきであると思うので、旅行プランを立てるのがめんどくさくなったら是非この本の旅行プランを参考にしてみると良いと思う。個人的に行きたいと思ったのはエチオピアのダナキル砂漠です。皆さんも自分のいきたい場所をこの時期に決めてみてはいかがでしょうか。</p>			
	1-150	150P (30分)	15-20	2020/11/26 17:13:52

--	--	--	--	--

<p>unknown</p> <p>☆☆☆☆</p>	<p>この本には心が動かされる絶景が64も紹介されている。それぞれの場所で旅行プランが組まれており、まるで自分がこれからその場所に行くかのような錯覚に陥る。またその場所での注意点が書かれていて、それを読むとますます旅をリアルに想像することができる。この本を一通り読んでどのような景色に自分の心を動かされるのか知ることができた気がする。自分が好きなのは山なのか、海なのか、空なのか、それとも歴史的建造物なのか。個人的には61ページのベネスエラにあるカナイマ国立公園行ってみたいと思った。巨大なテーブルマウンテンを直接自分の目で見る如果能够きたら人生観が大きく変わるような気がする。他には44ページのアイスランドにあるゴザフォスにも行ってみたい。実際に行った人のコメントで「爆音の中での瞑想はたまらんものがある」と書いてあって自分も同じことをやってみたいと思った。実際に自分がどんな景色に心動かされるのか知りたい人にはぜひ手にとって読んでもらいたいと思った。</p>	1-158	50P (30分)	44,61ページ	2020/11/26 15:02:09
<p>みちみち&lt;BR&gt; ☆☆☆☆</p>	<p>コロナウイルスの影響で他の国がとても遠く感じられるようになってしまいましたが海外に行きたい人は多いと思います。私もそのうちの一人ですが、今はおとなしくこの本を読んで、また気軽に海外に行けるようになったときのためにプランでも練ることにします。多くの美しい写真と大まかなプランで旅への欲を掻き立て得られます。その中で個人的に僕が行きたいのは幼いころに住んでいたイタリアでした。プランとしては主にフィレンツェの観光、ほんのプランに数日つけ加えてミラノ、ヴェネチアの観光もしたいと思います。予算としては30万ほどで行けると思います。大学生には高いですが、今は使う機会も少ないのでお金をためておこうと思います。</p> <p>もう少し安く行くことができるのがハワイだそうです！予算は10万！！美しいビーチやおいしい食べ物など想像はどんどん膨らみます。旅の注意点としてハイウェイの出口のことも書いてあったので、免許も取って万全にしてから向かいたいと思います。</p>	1-155	155P (45分)	59ページ	2020/11/19 16:36:28
<p>unknown&lt;BR&gt; ☆☆☆</p>	<p>素敵な写真とその場所への行き方が書かれた旅行のきっかけを作るには最適な一冊。日本国内から地球の反対側の南米まで有名且つきれいな風景が見られる世界の観光スポットを64個紹介している。もちろん旅のおすすめプランもざっくりと組まれており、行く際には参考にできる。</p> <p>個人的にはフィンランドのサンタクロス村でオーロラを見てみたいと思った。もともと死ぬまでに一回はオーロラを見てみたいと思っていたからこの本を読んでプランが具体的に出来てしまい、行きたい気持ちが抑えられない。一面の雪景色もまだあまり見たことないから見てみたい。</p> <p>今コロナで海外旅行とか全然できないけど、ワクチンもだいぶ出来上がってるみたいだから、ぜひともコロナ後の旅行先を見つけるきっかけ作りとして軽く一度目を通してみては？</p>	全て	1P (2分)	ざっと全体を眺めて	2020/11/17 22:45:15



死ぬまでに行きたい！世界の絶景 日本編

著者名	詩 歩	発行年	2014年
出版社名	三オブックス	ページ数	169ページ
値段	1,296円	ISBN	978-4861997051
コメント	世界編よりも、行きたいなあ！ の気持ちをもっと現実性をともなって湧いてきます。そうやって「憧れ」という引き出しのなかの絵はがきの枚数を増やしてゆくのは、なんだかうれしい気分。96ページ青ヶ島の全景は圧巻です。		

図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

映画一覧

プロフィール
一覧

自己プロフィー
ル

掲示板

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勧め度

読んだ場所

読んだページ数 (時間)

コメント

立ち読みポイント

投稿時間

↑天才 ↓変な人 ☆☆☆	世界の絶景に比べると建物による景色がほとんどなく、ほぼ自然を見に行くものだった。私はカメラをやっているのでカメラを持って出かけたくなった。特にP114-115に掲載されている観光地のベストシーズンカレンダー一覧表が載っているのでこの本から行き先を決めようとしている人はまずここを見るべきである。47都道府県のすべてから少なくとも一つ選出されているので旅行に行つたついでに寄りたくなるような絶景が多かった。東京は昭和記念公園のイチョウ、神奈川は仙石原のすすき草原が選ばれていてどちらも見に行つたことがないので来年の秋に行つてみたくなった。この本の欠点を上げるとすると、前述したとおりほとんどが自然なので似たような緑の写真が多く、山奥の木々か紅葉か雪か海かのいずれかである点である。若者をターゲットにした夜景などは少なく、これの為にわざわざ遠出するかといわれると戸惑い、例えば秋なら高尾山の紅葉など近場で代用してしまうかもしれないと思った。また写真が全体写真やどうやってとったのか疑問に思うものも多く実際行つて自分の目で見たらまた違う印象になりそうだなと思った。			
	全部	155P (50分)	8~21の写真	2020/11/30 22:49:49

団子
☆☆☆

20年前後、日本という国で生きている。あなたは日本の土地についてどれだけ詳しい知識を持っていますか。
旅行が好きということもあり今回はこの本を私は手に取ってみました。高校までの生活が終わり、時間にもお金にも自分でコントロールができる裁量が増えてきた。その中で国内では昔から行ってみたいところや、観光地を調べていく中で「ここにはこれがあるんだよ」といった土地についての知識がついてきたと思っていた。しかし、それは“思っていた”だけであった。
この本を通読してみて、私は日本といった他国でない、紛れもない自国に対する無知さを感じたのと同時に、なんと日本が狭いながらも絶景、彩が多い素晴らしい国なのかと痛感した。この本を読んでいく中で、新たな様々な観光名所、絶景との出会いは私のこれまで立ててきた、行きたいところリストのようなものを完全なまでに改変させた。そんな中「死ぬまでに行きたい」とタイトルが銘打つているように、簡単には行くことができる場所ではないが、生きているうちには絶対に行つてみたいと思える絶景とも出会うことができ、それが今回この本を読んでみての最大の報酬であった。
皆さんもこの本を読んでみて、私と同じ経験ができればなと考えております。

	60P	150P (50分)	60P	2020/11/30 22:00:52
--	-----	------------	-----	------------------------

virus ☆☆☆	<p>綺麗。ただただ綺麗で行ってみたいと思わされる1冊でした。自分は元々田舎出身で周りに何も無くあまり外出せずに生きてきました。上京と共に色々な所へ行くようになり旅行に興味が出てきた自分にとっては魅力的な所ばかりで見ていても楽しかったです。元々北海道に行ってみたかったのですがこの本では北海道が非常に多く取り扱われておりさらに興味が湧きました。大学生という時間が沢山ある今のうちに友達や恋人と行ってみたいと思う様な本でした。更に、その景色を見るとした時のプランの例も書かれておりとても参考になるなと思いました。しかし、文字だけで旅行全体の想像は難しいなと感じました。予算も現地予算だけで全体でどれくらいかかるのかというのも書かれていないため心配だなと思いました。あとはそれぞれのプランの例のページではカラー写真が使われていないため景色がわかりにくかったです。個人的に秋田県の花火がすごい綺麗だと思ったので見に行ってみたいと思いました。旅行好きな人や旅行に行ってみたくてどのような所があるのか知らないという方にはうってつけの本だと思いました。</p>			
	全て1-155ページ	155P (30分)	116-117	2020/11/30 17:45:06

やや酔 ☆☆☆☆	<p>旅行好きには是非一度読んでもらいたい一冊。各都道府県につき最低1箇所、計60箇所の日本の絶景が紹介されている。なので、自分の住んでいる都道府県や近隣の都道府県の絶景があるため場合によっては負帰りで見に行ける絶景が紹介されていることもある。各絶景スポットにつき美しい写真がついているのでそれを見るだけで実際に行かなくても楽しめるのが本書の特徴の一つ。また、各スポットをどのように楽しむ・旅行すればよいかというモデルプランがついているので社会人をはじめ時間の無い人にとっては一種の旅行本として機能すると思う。私たちにとてももちろん旅行プランを立てる上で参考になる。唯一の難点としては、モデルプランの泊数が統一されておらず、想定予算が大分高いところ。大学生のような金銭的に余裕のない人たちにとっては少しモデルプランの実現は厳しい。立ち読み箇所指定した76Pの昭和記念公園は新宿から電車で1時間かからずに行けるのでお勧めです。</p>			
	1-157P	157P (100分)	76P	2020/11/25 22:29:52

[TOP](#) ^

pero ☆☆☆☆	<p>この本には世界各地の魅力的な絶景・旅行先が50個紹介されており、旅行を決めるガイドブックにうってつけの一冊です。世界の絶景がフルカラーの写真とともに紹介されていて、旅の予算、行き方、おすすめシーズンや旅のプラン例まで載っているの、海外旅行に行ったことがない人にもわかりやすいと思います。私が行きたいと思ったのはこの本の表紙の写真にもなっているウユニ塩湖で、雨期に降った雨が地上に滲えらることで大地が鏡のようになり、まるで雲の上にいるかのような上下対象の世界になるという。ほかに行きたいと思った場所はタイのピピ島というところで、エメラルドグリーンに海に白砂のビーチを岩山が囲む湾が魅力的で、シュノーケリングをすれば綺麗な魚たちに簡単に会えるそうです。またピピ島では車やバイクが走っておらずゆったりした時間を楽しめるというのもすごくいいと感じました。今はコロナのせいで旅行するのが難しいですが、この本を読んでみると今後行きたい場所が必ず見つかると思います。</p>			
	1-240	240P (60分)	46-49	2020/11/30 13:37:49

unknown ☆☆☆☆☆	<p>この本は旅がテーマごとに分かれており、どんなことがしたいか決まっている人にはとても読みやすくなっている。また、特にやりたいことがない人でも、一つは体験してみたいことが見つかるだろう。題名の通り、夢のような体験がたくさん載せられていて、本当に自分がこんな体験ができるのかと疑問に思うほどである。142ページにはラクダに乗ってサハラ砂漠を神秘的な湖を目的地として6日間歩き続けるという体験が紹介されており、まさに人生に一回はやってみたい体験だなと思った。また、62ページにはトルコにあるカッパトギアで奇岩群を気球の上から眺める体験が紹介されている。気球に乗って、長い年月をかけて作られた大自然を眺めることができるなんて思ってもいなかった。このような体験を現実近くにしてくれるのがこの本だと思う。皆さんにもぜひこの本を読んで、人生に一度は体験してみたいことを探して欲しいと思った。</p>			
	1-230ページ	50P (30分)	62,142ページ	2020/11/26 16:34:03

[TOP](#) ^



MINIATURE TRIP IN JAPAN

図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

映画一覧

プロフィール
一覧

自己プロフィール

掲示板

著者名	田中 達也	発行年	2019年
出版社名	小学館	ページ数	132ページ
値段	1,980円	ISBN	978-4096823187
コメント	ぜひ「田中達也」さんで検索してみてください。 ミニチュアの楽しい世界が開けます。こんな表現方法もあったんですね。そのなかから和テイストの絵本を選びました。扇の富士山、お椀の五重塔、ストロー竹林のかぐや姫、「見立て」は日本の伝統でもあります。 身近なモノに別の意味を見出す発想力。工作好きさんなら作ってみたいくなるかも。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勤め度

読んだ場所

コメント
読んだページ数 (時間)

立ち読みポイント

投稿時間

8888 ☆☆☆☆	写真を撮るのは好きですが、あまり写真集の類を読んだことがなかったので見てみることにした。この本は日用品などを別のものに見立て、小さな人形などと共に撮ったミニチュア写真が載っている。1冊を通して日本を題材にしており。序盤では正月のような季節の行事をテーマにした写真。次に富士山やなどの日本の風景、温泉などの日本文化、桃太郎などの日本のおとぎ話をテーマにした作品と続き、最後にラーメンなども含んだ日本の食事をテーマにした作品という順に章別の構成になっています。ストローを門松に見せた作品のような日用品をテーマに見立てたものと、恵方巻を列車に見せた作品のようにテーマにまつわる品を別のものに見立てた作品があり見立ての使い方は割と自由です。しかし添えられている文章を読むと恵方巻を列車に見立てたのは列車が恵方に向けて出発するイメージであるなど見立ての用い方も考えられて面白いです。自分は旅行中などに風景を撮るのが好きなので特に2章目の日本の風景を題材にした部分では行ったことのある場所が別のもので表現されていて景色の見方の違いが面白く感じました。			
	すべて	119P (40分)	p 50-53、59-61	2020/11/30 21:51:30

[TOP](#)



ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー

著者名	ブレイディ みかこ	発行年	2019年
出版社名	新潮社	ページ数	256ページ
値段	1,485円	ISBN	978-4103526810
コメント	イギリスの中学生の日常。そんなの完全に「ひとごと」の遠さなのに、とても身近でリアル。過ごしてきたハイスクール時代を振り返りつつでも、将来の子育て（するよね？たぶん）の力強い参考としてでも、異文化とどうつきあうか、人としての根本を考えるきっかけとしても。 日常のエピソードをめぐるエッセイで、読みやすく平易なのに、深い。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勤め度

読んだ場所

コメント
読んだページ数（時間）

立ち読みポイント

投稿時間

マホロア ☆☆☆☆☆	本書は日本人の母とアイルランド人の父を持つ「ぼく」がイギリスの「元底辺中学校」に通った最初の一年半を書いたエッセイである。この本は本屋大賞2019のノンフィクション本大賞を受賞している。イギリスにおける人種差別や階級差別、貧困、ジェンダー問題などに触れられており、日本に住んでいたらなかなか体験することのできない日常が描かれている。 読む前は人種差別や階級差別の対象になってしまった少年が苦しむ様子が描かれているのかと思っていた。しかし実際は「ぼく」が差別の対象にもなることもあれば、差別で苦しんでいる学校の友人を助ける役割もする。様々な立場から差別を経験することで、「ぼく」は悩みながらも社会、多様性について学んでいく。 この本の最大のテーマは多様性だと思う。多様性が広まっているイギリスだが、イギリス国民全員が多様性を受け入れているわけではないということが本書からとても分かる。また本書の舞台は基本イギリスだが、日本に帰省したときの様子についても触れられている。この部分を読むと差別というもの日本人にとって無関係ではないと考えさせられる。日本でも多様性が広がっているが、差別やジェンダーの問題について未だ無関心である人が多いと感じられる。今後日本ではさらに多様性が広がっていきと考えられるが、この本は問題意識を持つきっかけになると思う。			
	1-253ページ	253P (240分)	27-41ページ	2020/11/30 22:10:08

ラゴス ☆☆☆☆☆	日本人の著者とアイルランド人の配偶者の間に生まれた、「イエローでホワイトな」息子の「ちょっとブルーな」英国での中学生生活を中心に描いたエッセイ。公立のカトリック小学校に通っていた「ぼく」は、白人労働階級の子供たちが通う元底辺中学校に進学することを決める。白人ばかりの学校生活に対する両親の心配をよそに、息子は色々な困難に直面しながらも楽しく通学していく。芯のある著者と真面目で純粋な「ぼく」が、人種・貧困・いじめ、種々の問題に向き合い、悩む様子が、ありのままに描かれている。 人種や貧困という属性はとても個人的なものであるのに、描かれるエピソードから普遍的でとても大切なものが感じられるところが魅力的だ。著者が学校制服のリサイクルのボランティアをはじめたときに、息子の友人に繕った制服をプレゼントしようとするエピソードがある。その友人は高
--------------	--

層公営住宅に住んでいて、そこは地区でも貧困の最下層の人たちが住む場所として位置づけられていた。貧困から擦り切れても修繕できない友人のために制服を渡したいと考えるのだが、クラスメイトにプレゼントされることが友人を傷つけることにならないかと心配し、息子はなかなか切り出せずにいた。著者自身も何と言えはいいか悩む中で、友人に「どうして僕にしてくれるのか」と問われ、息子は「君は僕の友達だから」と返す。社会の分断ばかりが取り沙汰される社会で、子ども同士だからこそそのやりとりが、読む側に何かを気づかせてくれるようだ。

全て

252P (200分)

100ページ～

2020/11/30
06:29:45

三二一
☆☆☆☆☆

私立カトリック校に通っていた息子は、元底辺中学校に行くことに。そこはいろんな人種、家庭環境の子がいる多様性にありふれた学校だった。入学後、彼はミュージカルでジーニー役を演じることになり、レイシストであったアラジン役のダニエルと衝突していた。しかしそんな2人も趣味が合ったおかげで仲良くやっていくが、今度はクラスメイトからダニエルへのいじめが始まってしまう。彼の中学校は学校の方針を切り替えたため生徒たちの学力は上がっているが、その反面貧困の子供たちはさらに苦しんでいる現状があった。ひとり親の子、同性愛者の子、移民の子、里親に育てられている子など家庭環境は様々である。アイルランド人と日本人に生まれた彼は、差別や意見の衝突を目の当たりにしていく日々。母の出身国日本に遊びに来た時にも外国人を軽蔑するような目に合ってしまう。彼は成長していくにつれ自分のアイデンティティーを模索する年頃となっていく。日本ではなかなか体験することがない、現代のイギリスのありのままを描いた物語。

全部

252P (150分)

146-151

2020/11/28
10:11:19

[TOP](#) ^



死刑執行人サンソン

著者名	安達 正勝	発行年	2003年
出版社名	集英社	ページ数	237ページ
値段	700円	ISBN	978-4087202212
コメント	仕事として人を殺す。その不条理をプロフェッショナルとしての誇りを以て乗り越えていった、たくましき家系の男たちの肖像が、じつにいきいきと提供され、ギロチン華やかなフランス革命の奔騰のまっただなかに首根っ子ごと巻き込まれます。		

図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

映画一覧

プロフィール一覧

自己プロフィール

掲示板

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勧め度

読んだ場所

読んだページ数 (時間)

コメント

立ち読みポイント

投稿時間

unknown ☆☆☆☆	本書は、フランスのパリで代々にわたって死刑執行人を務めたサンソン家の4代目当主シャルル・アンリ・サンソンの生涯を描くものです。死刑執行人の自身の職務に対する苦悩、車裂きや八つ裂きなどが用いられた当時の死刑において死刑執行における人道的配慮がなされるまでの過程、そして人道的配慮が進んだがゆえに革命で数千人が処刑されてしまうという悲劇が起きることとなった過程が詳細に描かれていてとても読み応えがあります。本書で一番印象に残ったシーンは小間使いの少女が、主人が逮捕された際に法廷にその主人と一緒にいたというだけで死刑にされたシーンです。数千人を処刑したサンソンだからこそ「死刑制度は間違っている」と心から思っていたのですが、私は間違っているのは罪を犯していない多くの人々に簡単に死刑を宣告した当時の司法であって、死刑制度が間違っているのかどうかはわかりませんでした(法というくりでは同じかもしれないけど)。		
	8-239	232P (250分)	2020/11/30 07:32:28

[TOP](#)



米中もし戦わば

著者名	ピーター ナヴァロ	発行年	2016年
出版社名	文藝春秋	ページ数	412ページ
値段	2,095円	ISBN	978-4163905679
コメント	トランプおじさんの参謀の言うことだから、話はんぶんにも聞いといたほうがいいとは思うけど、それにしても、中国、いつのまにこんなに強くなってしまったんでしょう？ びっくりです。 最新の軍事地図は就活の企業選びにも必須の情報。知っといたほうがいいかも。		

図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

映画一覧

プロフィール
一覧

自己プロフィール

掲示板

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勧め度

読んだ場所

読んだページ数 (時間)

コメント

立ち読みポイント

投稿時間

Shangus ☆☆☆☆	本書は、米中戦争が起こったらどういことが起こり得るかをアメリカと中国、両国を分析しながら、説明している本であるが、世の中の人達に中国という国の危険性を認識させる意図をもって執筆されていると思われる。確かに、現代の欧米諸国及びアジア圏の中では中国に対する肯定的な認識が増えている。さるほどに、あっという間に、中国は非常に発展してきた。著者はこのままなら中国が実際にアメリカを脅かせると主張している。本書の著者であるピーター・ナヴァロが、トランプ政府の国家貿易委員会の委員長を担っていることで、政治的な意見がかなり含まれているとは思われる。しかし、本書は、長い期間、中国政府が行っている歴史的な事件を具体例として、挙げていて主張の説得力が高かった。私が驚いたのは、中国は軍事的にも経済的にも膨張政策を維持していることであった。私が本書を読んで関心を寄せたのは、むしろ、両国の争いの中にある国（例えば、日本、南アジアの諸国）がどのような外交的な立場であるべきかであった。私には今の時代はまさに、新冷戦であると考えられる。どうすれば、この状況から脱せるのか深く考えてみるきっかけとなった。			
	全部	370P (712分)	120P-128P	2020/11/30 20:06:26

けん
☆☆☆

急速な経済発展とともに軍拡を進める中国。現在アジアの覇権をかううじて保っているアメリカ。その二大大国の対立を主にアメリカの視点で記した本である。中国とその周辺国の歴史、情勢、現在の軍事力などの豊富な情報から、中国の強みと弱みを分析し、米中戦争が起こるならば、どのようなシナリオになるか、またそのシナリオになった時には、いかに平和的に解決できるか、時にはどうすればアメリカが勝利を取めることができるかを説明している。

この本では、アメリカの弱点を説明する時はさらっと説明するだけであるが、中国のよくない点を述べる時には、過剰にマイナスな形容詞を使ったり、中国がサイバー攻撃でアメリカの情報を抜き取ったなどのことを繰り返して述べることで不安を煽ったり、「中国からの移民が各国で増えているので中国が移住先で支配を強めている」など印象の強い論理の飛躍を用いたり、するなど、中国がいかに悪い国家であり、それに対するアメリカが正義であるという事を強調していると受け取ることのできる部分が多い。この本だけでは、アメリカの見解を主にみることになってしまうので、中国側の見解を参照しながら見るのが良いと思う。

昔の日本のように、一度力を持った国は力がある限り外へ外へと広がっていきと考えられる。また、ブロック経済圏を作り、仲間内の利益を確保したなどの歴史もある。今の米中対立は、そのような第二次世界大戦前に似ているのではないかと思う。現に中国が外へ外へと広がっているととも、この本によると、アメリカは周辺諸国と協力することで海上封鎖ができ、中国に制裁を加え、経済圏を二分することもできるそうだ。歴史から学び、繰り返さないようにしていかなければならない。対立ばかりするのではなく協力して共に平和的に発展していくことを模索してほしい。これが結果的には両国にも、世界にもプラスになると信じている。

～立ち読みポイントについて～

「戦わずして勝つ」これが現在の中国の戦略であるそうだ。この戦略は兵法で有名な孫子の時の考えから来ているらしい。その考えは、現代風というと政治・経済、科学技術、教育、外交などなどにも力を入れて総合的な国力を持って世界の覇権を握ろうとしていることだ。一方のアメリカは、軍事に注力していて、その他の項目はペンタゴンですらも着目しておらず、筆者も警鐘を鳴らしている。今後中国が軍事力以外の項目でもアメリカに追いついてくれば、覇権は完全に中国が握ることになるかもしれない。このように、歴史のある中国が古くから学び現代への思想に取り込んでいるのが印象に残った。

1-412	412P (480分)	第6部 41章 「戦わずして勝つ」	2020/11/01 11:02:16
-------	-------------	-------------------	------------------------

[TOP](#)

すべて

304P (300分)

26-50

2020/11/19
10:08:42

[TOP](#)△



(株)貧困大国アメリカ

著者名	堤 未果	発行年	2013年
出版社名	岩波新書	ページ数	278ページ
値段	760円	ISBN	978-4004314301
コメント	夢の国アメリカのダークサイドのお話。 食べる物とか、身の安全とか、子どもの教育とか、ほんとに基本的なところの土台が、じわじわじわじわ大資本の利益優先によって腐食されていく。 ほんとかな？ 偏りすぎの内容を疑いつつも、きちんとデータとルポの裏付けがあるので、いったん聞いておく価値はあるでしょう。		

図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

映画一覧

プロフィール
一覧

自己プロフ
イル

掲示板

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勤め度

読んだ場所

読んだページ数 (時間)

コメント

立ち読みポイント

投稿時間

水上滝太郎
☆☆☆☆

今日の世界を指して「パクス・アメリカーナ」と呼ばれて久しい。ソ連崩壊後の世界にあって、唯一の超大国アメリカは、我々日本人の中のプロトタイプとして、「豊かな国」とみなされてきた。

本書は、そのような一般的見解に対して、「貧困大国」と真っ向から反対するタイトルを冠した文献である。プロローグで紹介された、フードスタンプの受給者数は、最も端的に「貧困大国」としてのアメリカ社会を描き出している。

本書の中で指摘されている多くの矛盾は、「小さな政府」と市場原理主義とに特徴付けられる、新自由主義的政策に起因している。例えば、本書第2章で指摘されているように、レーガン政権下での独占禁止法の規制緩和によって、企業の「垂直統合ブーム」が到来し、生産要素投入や物流部門で生産性の高い独占的企業が圧倒的な競争力と市場支配力を確立する一方、安全・安心な食を提供する個人農家は独占資本との競争に敗れて、不平等な契約の下で独占企業の契約農家に転落する。独占資本の畜産業の経営は常にコスト削減のためには家畜を劣悪な環境に置き、有害な抗生物質を大量に家畜に投与するから、狂牛病などの発生によって、食の安心・安全に対する大きな脅威となっている。

マルクス経済学では、資本主義とは、あらゆるものが商品として取引される社会であり、労働力もまた商品として取引される特殊な生産様式とされるが、本書では公教育・貧困対策・食品にいたるまで資本主義的生産様式が貫徹し、人間の文化的・健康的な生活のために基幹的な部門でさえ、独占資本の「特別剰余価値」獲得誘因によって運営されていることに、読者は驚愕するであろう。本書を通して、読者は今一度、新自由主義と、その理論的支柱であるところの新古典派経済学の是非を問い直す必要があるだろう。

全部(pp.1-278)

278P (360分)

pp.66-120(第2章)

2020/10/10
09:20:08

[TOP](#)



任天堂“驚き”を生む方程式

著者名	井上 理	発行年	2009年
出版社名	日本経済新聞出版社	ページ数	288ページ
値段	1,700円	ISBN	978-4532314637
コメント	<p>人生のたくさんの時間をお世話になってきた、いやたぶん今もお世話になりつつあるゲームの世界のお話。京都の花札屋がいかにして世界制覇を成し遂げたか？ なんてまとめると、ありがちサクセスストーリーっぽく聞こえるけれど、どうしてどうして、この会社はタダモノではない。「最先端じゃなくてイイ、枯れた技術でじゅうぶん」「僕らは役に立たないモノを作ってる」、経験に裏打ちされたスゴイ言葉がぼんぼん飛び出します。数時間のインタビューをお手軽にまとめたのとは底力の違う、取材の手あつさがあってこそ。気合いの入ったルポルタージュです。</p> <p>そして何より、社長の岩田さんが我らが東工大の大先輩……</p>		

図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

映画一覧

プロフィール一覧

自己プロフィール

掲示板

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム

お勤め度

読んだ場所

読んだページ数 (時間)

コメント

立ち読みポイント

投稿時間

マホロア
☆☆☆☆

本書はゲーム会社の任天堂がなぜ世界的なブランドになれたのかということ、この本を執筆した2009年当時社長だった岩田聡氏や3代目社長の山内溥氏などへのインタビューをもとに解説している本である。2009年当時は携帯型ゲーム機の「DS」や据え置き型ゲーム機の「Wii」が大ヒットしてから少し経った時期である。任天堂は2000年前後にソニーとのゲーム機戦争に敗北を喫した。また同時にゲーム機離れも進んでおり、任天堂はこの状況に危機感を憶えた。どうしたらよりゲーム機が売れるようになるかを考え、ゲーム機が置かれている現状を把握することで数年後に任天堂は大人気ゲーム機を開発することができた。失敗から学び、遊びたくなるゲーム機を開発するという原点に立ち返ることで、再び成功することができた任天堂の経営戦略から得られる学びは多い。任天堂というゲーム会社のイメージが強いため、ゲームをよく知らない人は読むことに抵抗を感じるかもしれない。しかしこの本に書かれている内容はゲーム会社に関わらず様々な会社にとって大切なことであり、ゲームをよく知らない人でもためになることが多く含まれている。

この本では任天堂の2000年前後に起きた不振や数年後の回復以外にも、「ファミリーコンピュータ」など数々のヒット作を生み出すことができた「任天堂らしさ」というものについても触れている。「任天堂らしさ」には納得できる内容以外にも、常識からはかけ離れていることも含まれている。しかしその常識からかけ離れた経営方針がヒット作を生み出してきた経緯を読むことで、娯楽商品売るためには何が必要なのか、さらに商売をするために大切なことを知ることが出来る。この本は2009年執筆のためスマホの台頭によって携帯型ゲーム機の市場に大きな変化が起きたことはほとんど書かれていない。しかしこの当時の経営方針が最近のゲームに関係していると感じ取れる部分が多く存在し、社長が変わった現在でも「任天堂らしさ」が受け継がれていると感じ取れる。コロナ禍で「あつまれ動物の森」が大ヒットし、様々な機能が搭載されたソニーの「PS5」が発売されて話題になっている今だからこそ十分に読む価値のある本になっている。

1-304ページ

304P (300分)

67-73ページ

2020/11/30
21:24:13

とうふ

任天堂という企業について、漠然としたイメージで“成功している”と思っている人は多いのではな

☆☆☆☆

いかと思う。この本は、その部分を深く掘り下げている。2009年に出版された少し前の本であり、触れている部分もそれより前「wii」までのことであるが、成長を読み解く上ではこれからの企業にも共通点ばかりであるので、少しでも興味を持った方はぜひ読んでみてほしい。

特に立ち読みポイントであげた岩田さんの話をはじめとして、各役員の話が並び、また235ページから岩田さん周辺メインの話があるのだが、任天堂という企業が継続的に成り立ち続け、また海外へとも広がっていることの原因がくみ取れる。

日本の企業として、不況だったり経営の未来が怪しかったりといった時に、どのように方向を決めていくのか、海外へ日本企業がいて成功するためにはどのようにすればいいのか、といった現状にも役立つケースに対する任天堂としての答えが豊富に盛り込まれている。任天堂だからこそ、その部分はもちろん多いが、それ自体を知る事も、専門として経営を学んでいく人にはぜひおすすめしたい。

全部

307P (240分)

84-92

2020/11/30
03:14:37

J.T

☆☆☆☆

この本が2009年に発行されたため、書かれている内容は主に自分たちが小学生の時に流行っていたゲーム機であるDSやWii、あるいはそれより前のものに関する、戦略などについて説明されている。

また当時の社長は東工大出身の岩田聡さんだということもあり、あまり東工大出身の人が実際にどのように経営していたかも少し知れる本である。

自分たちはちょうどDSの世代であるので、当時の自分たちにはわからなかったことが説明されているということもあり、驚くことが多いのではないだろうか。

他社製品とどのように差をつけて売れたのか、そして2008年のリーマンショックの際に他の日本の会社は業績が悪くなっていった一方で、任天堂は今までの水準を保っていたのかが書かれている。

これは今のコロナ禍での巣ごもり需要で、ゲーム機が飛ぶように売れているということと共通して言えることもあるのではないのかと思う。また今後の情勢によっても再び似たようなことが起きた時にはこの本の内容をもとに、ゲーム関連企業の動きに関心をもって見れるようになるようになる本だと思う。

7-304

298P (240分)

247-266

2020/11/29
23:27:36

[TOP](#)



岩田さん 岩田聡はこんなことを話していた。

図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

映画一覧

プロフィール
一覧

自己プロフィー
ル

掲示板

著者名	ほぼ日刊イトイ新聞	発行年	2019年
出版社名	株式会社ほぼ日	ページ数	224ページ
値段	1,870円	ISBN	978-4865014228
コメント	岩田さん。憧れの大先輩。 「ほぼ日」らしく洒落な仕上げで、その人となりを再現します。こんな上司のもとで働いてみたかった！		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勤め度	読んだ場所	読んだページ数 (時間)	コメント 立ち読みポイント	投稿時間
unknown ☆☆☆☆☆			東工大の先輩であり、私の高校の先輩でもある岩田さんについての本である。岩田さんの社長としての信念、人と人とのコミュニケーションとしての考えがとても納得させられるものがあった。経営工学系を専攻しているものとして社会に出るときに岩田さんの言葉を胸に生きていこうと思った。	
	全部	220P (200分)		2020/11/30 21:57:54
チョロQ ☆☆☆☆☆			東工大出身である岩田聡さん。僕は幼いころから任天堂のゲームの大ファンで、生前から岩田さんのことを存じ上げていました。岩田さんが亡くなられてからは、岩田さんに関する記事を読んだりしていたので、この本に書いてある内容も、一部知っているものがありました。つまり、「岩田さんのファン」としてこの本を手にとったのですが、そういった最真目抜きにしても、この本は面白いと思います。何が面白いかというと、やはり岩田さんの物事の考え方やお人柄に尽きます。プログラマーから社長、つまり開発畑から経営者へと進み、たくさんの人と関わってきた岩田さんだからこそ見える視点から問題にアプローチしていく姿勢が、とても美しくカッコイイです。だからこそ、世界中のゲームファンとゲームクリエイターに愛され、こうして伝記のような形で彼についてまとめられた本が作られたのだと思います。ゲームファンの必読書として、自己啓発本として、偉人の伝記として、ぜひとも多くの人に読んでもらいたい一冊です。	
	全部	220P (150分)	64-75ページ	2020/11/30 21:54:33
PNJ ☆☆☆☆☆			東工大の卒業生である岩田聡さんの本です。任天堂の元社長の岩田さんについて色々なことが書かれています。特に印象に残ったのはプログラムの経験が会社の経営に活かしているというところで、プログラムがうまくいかなかったら自分に原因があるというのと同じで、コミュニケーションがうまくいかないのは絶対に人のせいにならないで自分に原因があるとかがえていという考えが非常に尊敬すべき	

	点だと思った。 他にも色々多くのことが語られているので東工大生ならばぜひ読んでほしいと思う一冊である。		
全部	220P (240分)	16-35	2020/11/30 21:04:05

bonc ☆☆☆☆	<p>本書は任天堂元社長の岩田聡さんの生前の言葉を再編したものである。岩田さんの経営や、ものづくりに対する哲学が語り口調で描かれていて、細かいニュアンスまで読み取りやすいのが特徴であると思う。岩田さんの考え方の中で特に印象的だったのは、人間の得意、不得意なことに関する考えである。何かが得意な人というのは、それをするのにかける労力よりもそれを達成して得られる達成感や快感（岩田さんはこれをご褒美と呼んでいる）の方が大きく感じられる人であると岩田さんは考えていた。つまり、才能とは「ご褒美を見つけられる能力」のことだと言える。経営やマネジメントに関わると、人の得意なことや才能を引き出すことが重要になるが岩田さんは、その人がある仕事をして達成感を得るようにマネジメントをするのが上手であったため、任天堂の事業で成功することができたのだと思う。</p> <p>この本の性質上、全体的な本の編成としては一貫した論理構成は明確に存在していないが、それだけにどのページから読んでも岩田さんの語り口調に引き込まれるように感じると思う。本書の随所には岩田さんのことばのかけらという短い岩田さんの話が挟まれている。本文とは一風違うレイアウトになっていて、読んでいて飽きないような抑揚になっていると感じた。さすがは糸井重里、といったところだろうか。</p> <p>ゲームの話もちろんあるが、それ以外のより一般的な哲学観も多く語られているのでゲームに興味のない人にも読んでほしいと思う。</p>		
	全て	220P (200分)	81ページ

ノゴロー ☆☆☆☆	<p>東工大生の卒業生ということでずっと大学生協に置いてあって気になっていたので今回読んでみました。任天堂元社長の岩田さんの小話みたいなのがひたすら書いてありました。色々な話の中で一番私が岩田さんに尊敬の念を覚えたのは、岩田さんが自分をすごく客観視出来ていたということでした。元プログラマーだった岩田さんは進んで社長になろうとした訳ではなく、客観的に会社の状況を見た時に自分が社長をやるのが一番最適だと判断して社長になったそうです。自分がやりたいからどうのこうのという話ではなく、自分がやるのが最適だと客観的に判断して、そして実際に自分の好き嫌いとは関係なくその役職を全うできてしまうというのは本当に尊敬できることだと思います。この本だけに限った話ではないですが、誰か偉大な人の人生を本を通じて垣間見るとするのはとっても面白く、また自分の人生を豊かにしてくれることだと思います。岩田聡さんという人の人生を垣間見れてとても楽しい時間でした。</p>		
	全て	219P (180分)	1-14ページ



みずほ銀行システム統合、苦闘の19年史

著者名	日経コンピュータ	発行年	2020年
出版社名	日経BP社	ページ数	256ページ
値段	1,980円	ISBN	978-4296105359
コメント	<p>システム障害。たった1つの不具合が連鎖に連鎖を引き起こし、あっという間に全てのプロセスが行き詰まって停止してしまふ、まさに悪夢。多かれ少なかれシステムに携わることになるみなさまにとっての一大関心事でしょう。</p> <p>みずほが経験した「まさか」と「またか」の2度の悪夢の経緯とそこからの離陸が、そこそこドラマティックに語られます。プロのみなさまにとっては掘り下げ不足だったり、新システム礼賛が過ぎるゾだったり、でしよけど、そんな批判的視点も含めてさらっと読んでおくと良いのでは。</p>		

図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

映画一覧

プロフィール
一覧

自己プロフィール

掲示板

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勧め度

読んだ場所

読んだページ数 (時間)

コメント

立ち読みポイント

投稿時間

unknown ☆☆☆☆☆	この作品では、みずほ銀行で起こったシステム障害についての詳細が描かれている。勘定系システムを完成させるための年月や費用にはとても驚いた。私もよくみずほ銀行を使うので、裏側にはこんな技術が詰まっているのかと感心した。			
	全部	253P (150分)		2020/11/30 22:22:14

Matsuzawa ☆☆☆☆☆	本作品では、みずほ銀行が過去に起こしたシステム障害についての詳細・原因などを明らかにしている。その2つのシステム障害を乗り越え完成させたみずほ銀行の勘定システム「MINORI」。2019年に開発完了した本システムであるが、開発には莫大な費用と年月を要している。それらは作品中に記載されているのでぜひ見てもらいたい。ゾットするような数字が並んでいる。他銀行がバブル期の勘定システムを使い続ける中、新しいシステムとして稼働した「MINORI」。作中では向う10,20年は安泰であるを書いてあるが、その根拠がしっかり述べられておらずあまり納得はいかなかった。ぜひみなさんにも読んでいただいで考えて欲しい。大岡山駅前のみずほ銀行ももちろんこのシステムを使っている。それに費やされた費用と年月、さらに他社と異なる機能を知ればありがたみも分かるかもしれない。			
	1-253	253P (240分)	37-56	2020/11/30 13:51:42

hide ☆☆☆☆☆	みずほ銀行の、銀行業務を支える「勘定系システム」と呼ばれるシステムの新規開発と、それに至るまでの経緯を書いた本である。この本はみずほ銀行側の人間によって書かれたものではなく、日経コンピュータの記者によって書かれているので、とくに本の後半にはかなり厳しい口調でみずほ銀行の対応を批評している。単純にシステムを礼賛するだけではないのが本書のミソだろう。この本のタイトルをみて、システム構築に関する本が書かれているのではないかと思われるのであ			
---------------	--	--	--	--

る。自分も読む前はそう思っていた。なのでエンジニア(志望)以外は本書を読むハードルが高いと
感じるかもしれない。しかしこの本の本質は2019年に導入された新システムではない。システム
導入までの経営者側の対応を批評した本なのである。この本を読むと経営者として情報システムを分
かっていないとんでもないことになるということに分からされる。度重なる経営陣のITへの理解
不足、現場の判断ミス、それが原因でみずほ銀行は2度も大規模障害を経験したのである。決して
システムの問題ではない、ということはこの本は強調している。自分は情報系でエンジニア志望だ
が、本書を読んでおくと経営者がどのような考えをしがちかが分かった気がする。将来のキャリア
に生かせるとよいと思う。

1-253

253P (240分)

15-36

2020/11/29
16:49:16

[TOP](#)^



あのメニューが生まれた店

著者名	菊地 武顕	発行年	2013年
出版社名	平凡社	ページ数	128ページ
値段	1,600円	ISBN	978-4582634860
コメント	ハヤシライスにオムライス、お子様ランチに担々麺。おなじみのメニューが、いちばん最初に生まれたときは、どんなつもりで、どんな苦心があったのかしら。実際にお店を訪ねてお話を伺ってまいりました。どれもおいしそう！ おなかのすいた時にどうぞ・・・		

図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

映画一覧

プロフィール
一覧

自己プロフィー
ル

掲示板

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勧め度

読んだ場所

読んだページ数 (時間)

コメント

立ち読みポイント

投稿時間

unknown ☆☆☆☆☆	食べ物が好きな人や、ウチクが欲しい人には是非読んでもらいたい一冊である。この本にはみんなが知っている有名な料理が誕生した経緯が書かれている。例えば、「カツ丼は蕎麦屋で生まれた。」「串カツはもともと肉体労働者のための食べ物だった。」などが書かれている。この知識を食事中に披露したらウチク王と呼ばれることは間違い無いだろう。また、いろいろな料理が誕生した経緯を読んでいると、そのほとんどが考えて作り出したものではなく、たまたま生まれたものだわかる。何か新しいものが生まれときは偶然と偶然の重なり合いで起きるものだと思う。料理の発祥のお店に行ってその料理を食べてみるというのも、この本の楽しみ方の一つだと思う。東京にあるお店発祥の料理はたくさんあるのでいろんなところを回ってみるのも楽しいと思う。たらこスパゲッティ発祥のお店である「壁の穴」は自由が丘にもあるので行ってみたいと思った。			
	1-120	50P (30分)	52,60ページ	2020/11/26 17:27:05

[TOP](#)